

歴史研究の成果発表フォーラム 徳島市立が最優秀 戦争の多面性に焦点

空襲を受けた被害者としての側面と、満州や朝鮮では植民地支配をした加害者の側面があったことを提示。一人一人に一面的な戦争像にとどまらない「戦争のかたち」があると考察した。

4人はいずれも2年生で、上林さんは「テーマが大きく、まとまるか不安もあったが、多くの人の協力で成し遂げられた。最優秀賞という結果もうれしいが、人とのつながりの大切さを学べた研究だった」と喜びをかみしめた。

徳島県内の中高生が歴史研究の成果を発表するフォーラムが県文化の森イベントホールであり、高校生部門は、戦争の多面性に焦点を当てた徳島市立歴史研究部（上林未侑さん、鎌田安希子さん、見村亜希子さん、山本はるかさん）が最優秀賞を受賞した。

テーマは「徳島から戦争を考える」。徳島駅前島▽「藍と木綿の伝統のフシントンヤシは、戦後の復興のシンボルとして植えられたということを知ったのが研究のきっかけだった。」

生徒たちは昨年6月から約8カ月かけて研究をまとめた。戦禍を逃れた県内の寺院を訪ねたり、各市町村史を調べたりして、戦争体験者をリストアップ。徳島大空襲の被災者や満州移民を経験した6人に聞き取りを行った。

発表では、体験者には

【紙面編集】岩井雅文



「徳島から戦争を考える」をテーマに発表した徳島市立歴史研究部。県文化の森イベントホール